

## 北井一夫写真展「カラー いつか見た風景」

作家名：北井 一夫

会場：gallery 176 (ギャラリー イナロク)

大阪府豊中市服部元町1-6-1 / 阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期：2019年7月5日(金)～7月16日(火)

休廊日：7月10日(水)、11日(木)

開廊時間：13:00～19:00

企画：gallery 176



© Kazuo Kitai

## 展覧会概要：

白黒写真作品の印象を強く残す写真家「北井一夫氏」によるカラー作品の展示。「カラー いつか見た風景」として1970年から2000年にかけて、国内外を旅し、自然やその地で暮らす人々の日常を捉えたカラー作品を展示します。（インクジェットプリント作品）

\*今回の北井一夫写真展「カラー いつか見た風景」はgallery0369（三重）とgallery 176（大阪）を巡回する展示となります。

gallery0369（三重）展示日程：6月9日～6月16日開催

## 今回の写真展企画について：

「ああっ」と思わず目を凝らしてしまう、懐かしさ。心の中に抱え込んでいるような景色や、うんうん、こんな人たちがいたよなあと、うなずいてしまう子供たち、大人たち。町も、田舎も、都会も、異国でさえ、北井一夫さんは、時にまつわる偉大なる平凡を、日常から異界へと、ワープさせてしまう。こんな写真家は、まずいない。

その昔、木村伊兵衛という写真家<sup>えにし</sup>がいて、おつな写真を撮っていた。それはそれは、味のあるいい写真だった。北井一夫さんは、木村さんとの良き縁も浅からず、彼を記念とした、木村伊兵衛賞の第一回受賞者でもある。

最近の北井さんは、ますます元気で、この年の4月、熊野のあたりを、深く深く徘徊し、巨岩や巨木、丸石信仰など、またも時の進行の最中<sup>さなか</sup>を、過去から現在そして未来へ、自由自在の旅をしつつ、大いなる時間を写しとめていた。その姿勢の頑固一徹は、長い写真作家としての経験から編み出された、自身の確固たる視座<sup>すべ</sup>であり、依る術<sup>わざ</sup>の集大成のなせる業と、同行を許された、わたくしの眼に映った。この展示も、そんな北井さんを、うつしてみる鏡の一枚となる。

石井仁志(メディアプロデューサー)

北井 一夫 (写真家)

1944年 満州鞍山生まれ

日本大学芸術学部写真学科中退。『三里塚』『村へ』『いつか見た風景』『フナバシストーリー』『1990年代北京』などドキュメンタリー的な写真を撮影、発表してきた。1972年、第22回日本写真協会新人賞。76年、第1回木村伊兵衛写真賞。2013年、日本写真協会作家賞を受賞。出版物は膨大、個展も多数開催。

石井 仁志 (20世紀メディア評論・メディアプロデューサー)

1955年 宮城県仙台市生まれ

細江英公写真展「気骨」をはじめ、数々の写真展を企画運営。近現代文化史研究、中島健蔵研究、音楽、写真、映像、文学と幅の広い評論活動を展開。元早稲田大学エクステンションセンター講師。清里フォトアートミュージアムのヤング・ポートフォリオ、新潟大学地域映像アーカイブを支援協力。東京都写真美術館「生誕百年中島健展」2004年監修。

お問い合わせ先

北井一夫写真展「カラー いつか見た風景」に関するご質問、メディア掲載用画像の提供等のお問い合わせは、下記までお願い致します。

gallery 176 (ギャラリー イナロク)

担当：松原豊

tel : 050-7119-9176 | e-mail : info@176.photos